

令和4年度 自己評価表(中間評価)

中長期目標 (学校ビジョン)	これからの社会に向け、たくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。
-------------------	--

今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びの推進 規範意識と多様性の受容力の向上 地域貢献力の育成
----------	--

年度当初					評価結果(9月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的な学びの推進	学びに向かう意欲・意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○12月末日現在、授業関連(授業放棄・授業さぼり)で指導改善カードを受けた生徒は8名、のべ16件(全て1年次生)であった(R2:2名)。 ○学校評価アンケートで、学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が91.5%。学ぶ内容や進め方に満足していない生徒の割合が前年比14ポイント増。 ○日野高版の「ふるさとキャリア・パスポート」を作成し、進路用ファイルを用いたポートフォリオを蓄積した。 ○「課題研究」におけるルーブリック評価を継続的に実施し、自己有用感や客観的な視点を育成した。「(人の役に立っていると思う)2年次44.8%→3年次57.1%)」 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒が延べ5人以下。 ○落ち着いて安心して授業に参加できると回答する生徒が90%以上。 ○学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をする生徒が90%以上。 ○進路指導に肯定的な回答をする生徒が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びのルール」を毎月初めに確認し徹底する。 ○ICT機器を活用するなどして、生徒による授業評価を把握し、授業計画に反映する。 ○担任面談で、家庭学習調査の結果をもとに、家庭学習の習慣化を促す指導を行う。 ○進路ガイダンスや面談等、キャリアカウンセラーの充実を図る。 ○「総合的な探究の時間(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」においてルーブリック評価を取り入れつつ、生徒の自己有用感と客観的な視点の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○9月末日現在、授業関係で指導改善カードを受けた生徒は8人(2、3年次生中心)であった(R3:14名)。 ○学習への取り組み姿勢に肯定的な回答は94%、学習内容の満足度に肯定的な回答をした生徒は79%と昨年同時期とほぼ同じである。 ○個々の学力及び進路希望に対応するため、希望者にスタディサプリを導入した。学習会場を校内に設定しているが、利用は一部生徒にとどまっている。 ○「日野探究Ⅱ」においてルーブリック評価を継続的に実施しており、自己有用感や客観的な視点が育成されつつある。「(人の役に立っていると思う)は2年次30.4%→3年次36.4%)」 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○特定の生徒以外は落ち着いた状態で授業に向かっているが、引き続き指導改善カードの積極的な運用とその場での指導の徹底を行う。 ○生徒による授業評価を実施し、その結果を学校全体で共有し、授業改善につなげる。 ○面接週間には2年次よりキャリア形成部も面談をし、個々の生徒の進路希望を把握し、早期に指導を始める。
	授業のICT化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の質的改善に取り組んでいると答えた教員は、91.7%で、前年の88.9%よりも向上した。(前年比2.8ポイント増) ○公開授業週間では、7月に対面で授業研究会を、11月には各教科で公開授業を実施。 ○教育センターGIGAスクール推進室より講師を招き、ICT教職員研修を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の教員の授業を年2回以上参観し、振り返りシートでフィードバックする。 ○クロームブックやタブレット端末を効果的、かつ定期的に活用した授業を実施している教員が50%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協同学習重点授業科目を決定し、授業プランシートを活用した授業公開を実施する。 ○ICTの授業活用事例の職員研修を行い、授業改善を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○7月の協同学習授業研究会に合わせ、授業公開週間を実施。授業へのICT活用法について教員間で相互研修を行った。 ○8月に、ICT活用の先進校から教員を招聘し、Chromebookの活用について教員向けの校内研修を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研修で得られた知識や新しいアイデアを実際に授業で活用していく。 ○多くの教員が、日常的にICT機器を利用し、より効果的で効率的な授業を進めていくことができるように、必要な環境整備を行う。
2 規範意識と多様性の受容力の向上	人と関わる力の増大	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をした生徒は46.1%(R3.12月現在)。 ○対人関係でストレスを持つ生徒や自己肯定感の低い生徒も多い(保健室来室者実人数79人、教育相談数41件)。 ○1年次生対象に自己理解・他者理解講演会、2年次生対象に性教育講演会を実施。(12月) ○1年次生対象に食育講演会、3年次生対象に食育映画鑑賞会、希望者対象に簡単朝食講習会(家庭クラブ)を実施。 ○問題行動事案での指導件数が3件。 ○学期ごとに目標設定と振り返り(アンケート、口頭発表)を行い、行事ごとに振り返りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をした生徒が50%を超えている。 ○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒が85%以上。 ○朝食を全くとらない生徒が5%未満。 ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が0件。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとに目標設定と振り返りの時間を設け、自己の成長を客観視させる。 ○自己理解・他者理解講演会、性教育講演会を実施する。 ○食育講演会、食育映画鑑賞会を実施する。 ○地域貢献・連携活動をととして、生徒自身に成功体験を積みませ、自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情に関するアンケート項目に肯定的な回答をした生徒が30.8%、自己有用感に関するアンケート項目に肯定的な回答をした生徒が34.1%(R4.7月)と、昨年度より下がった。 ○1年生対象に自己理解・他者理解講演会(7月)を実施し、「講演会の内容が分かった」と回答した生徒が80%であり、講演会の成果が見られた。 ○食に関するアンケート結果を基に保健だよりで食の大切さを生徒に伝えた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○進路実現のための自己分析や面接練習をととして、自己を見つめる機会を設ける。 ○学校祭等をととして、他者のために活動する機会を設ける。 ○性教育講演会、性に関する指導LHRを実施し、さらに自他を尊重する態度の育成を図る。(12月)
	地域に貢献する意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒が77.5%で、前年比14.3ポイント減。 ○「学びの成果発表会」において指導助言者から、「地域を学びのフィールドとした取り組みが学年進行することに充実している。」と高評価を得た。 ○「日野高ショップ」、「日野高校・小学生交流学習」、「Weスポーツ」等を通して地域連携・地域貢献を果たした。 ○生徒会執行部を中心に、学校祭の企画運営や「はるかのひまわり」の活動、学校評価アンケートによる現状把握への取り組み等、積極的に取り組む姿勢がみられた。 ○「ゴミ減量チャレンジ」を行い、学期末に表彰した。 ○「ゴミ出さないDay」を5月に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答する生徒が80%以上。 ○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができることを考えるようになる。 ○生徒が主体的に部活動、生徒会活動、学校行事、地域貢献等の活動に取り組めるようになる。 ○前年の可燃ゴミの総量を超えないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」の授業において、話し合いや振り返りの時間を確保し、主体的対話的な深い学びを促進する。 ○生徒会執行部を中心に生徒自身が主体的に活動を行い、その活動の中から実現可能な地域貢献を行う。 ○「ゴミ出さないDay」等の減量意識啓発活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した学びをより認識できるよう、「総合的な探究の時間」の名称を「日野探究Ⅰ」「日野探究Ⅱ」に改めた。 ○1年次の「産業社会と人間」から3年次の「日野探究Ⅱ」までの学習の流れを精査し、カリキュラムを再構築した。 ○生徒会執行部を中心に、「はるかのひまわり」の活動や学校祭の企画運営に積極的に取り組んでいる。 ○クラスからの可燃ゴミは前年度比137%。学校全体の可燃ゴミは前年度比84%。 ○ゴミ出さないDAYを6月に実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや目標を生徒に提示し、地域と連携した取り組みの意義を認識させる。 ○新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、地域へ出向き、地域との連携を強化し、地域貢献力の育成の充実を図る。 ○ゴミ減量チャレンジを継続する。 ○TEAS通信などで啓発活動を継続する。
4 働き方改革の推進	勤務時間管理及び働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○一人当たり月平均時間外業務時間が7.1時間であった(前年比26.8ポイント増)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務を前年比30%削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議を減らし、時間外業務の削減を図るとともに、組織的な業務運営を推進し、校務運営の効率化と業務の平準化を図る。 ○部活動計画を毎月立案し、計画に即した部活動指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務の削減は前年度比-3%(8月末) 	D	<ul style="list-style-type: none"> ○適確な業務の遂行と平準化を行い、組織的な業務遂行を図り、個々の業務負担の軽減、時間外業務の削減を図る。 ○担任業務や分掌業務を整理し、業務の見直しを行う。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直

[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]